

- 奈良県産茶は、原料供給産地としての色合いが濃く、**ブランド化が課題。**
- そこで、奈良県が過去唯一育成した品種「**やまとみどり**」に着目。
- 本種は煎茶として良質で機能性成分も比較的多く、奈良県を連想させる品種名を持つ。しかし、極晩生で初期生育も悪く、生産性も低いため、**栽培面積は非常に少ない。また、本種の単品販売も本県の流通特性上無い。**
- そこで、本種の商品試作を行い、消費者を含めた県内外の実需者の評価を得た。また、本種の特徴、来歴等について再整理を行った。
- 開発された試作品はいずれも実需者からの評価は高く、**平成29年度は商品化し販売を行っていくこととなった。**

具体的な成果

普及指導員の活動

1. かぶせ茶の評価と価格の向上

- H28年産かぶせ茶について、他産地の主要品種と比較した結果、**遜色のない評価**が得られた。

品種	香り	味	購入価格 (小売り100g)
おくみどり	6.4	7.1	¥1,207
やぶきた(静岡)	6.7	6.8	¥1,130
ゆたかみどり	5.7	7.1	¥1,065
やまとみどり	5.7	6.1	¥1,011
さえみどり	6.2	7.0	¥1,011
さえあかり	6.6	6.4	¥1,000
しゅんたろう	5.5	6.0	¥978
やぶきた(鹿児島)	6.3	6.7	¥967
やぶきた(埼玉)	6.0	6.4	¥957
あさのか	5.3	5.9	¥837
かなやみどり	5.1	5.2	¥837
あさつゆ	5.9	5.6	¥826
サンルージュ	4.1	4.2	¥798
全平均	5.8	6.2	¥972

首都圏の日本茶インストラクター・茶業者対象試飲調査結果
心向樹 川口氏提供(H28.11)

- H29年一番茶は**奈良県市況の2倍以上の価格**で首都圏茶業者へ試験販売できた。

2. 食品添加用抹茶の活用

- 県内の製菓業者など4業者が**平成29年度より本種抹茶を用いた製品の販売を開始**。また、大手製菓業者の協力も得られた。

3. 「やまとみどり」栽培面積の拡大

- 低コストな地床苗での育苗も検討した結果、**3節2葉の挿し木で良苗を得られる**ことが確認できた。
- 平成28年度から29年度にかけての**新規植栽は3戸、30a**となる見込み。

平成26年
「やまとみどり」について、聞き取りによる県内生産者の栽培、加工状況調査を実施。

平成27～28年

- 「**産地ブランド発掘事業**」を活用し、**本種の再評価と商品開発**に取り組んだ。
- 生産者の製造する茶種に応じた**試作品の作製を支援**するとともに、消費者、業者などから**試作品の評価**を得た。

平成28年

- 地床苗での増殖試験を行い、**低コスト化**を図った。
- やまとみどりの来歴、特性等を取りまとめ、全国地紅茶サミットにて発表し、**県内外の茶業関係者、消費者に広くPR**した。

普及指導員だからできたこと

- 担当普及員が**茶専門で当該地域を長く担当**しているため、**本種の生産者の動向や来歴、特性などを把握**していたことが今回の課題化につながった。
- 日頃から連携している農業者、民間企業、苗木生産者、日本茶インストラクター等の**関係者を結びつける**ことで事業を効率的に進めることができた。

奈良県

奈良県育成品種「やまとみどり」の特徴を活かした商品開発

活動期間：平成27年度～（継続中）

1. 取組の背景

- 奈良県産茶は、原料供給産地としての色合いが濃いことからブランド化が進んでいない。
- そこで、奈良県が過去唯一育成した品種「やまとみどり」に着目した。
- 本種は極晩生で初期生育も悪く、生産性も低いため、栽培面積は非常に少ない。また、系統出荷を中心とする本県の流通特性上、本種の単品販売も無い。
- しかし、本種は煎茶として良質で機能性成分も比較的多く、奈良県を連想させる品種名を持っている。
- このような「やまとみどり」の長所を活かした商品開発がブランド化の一助になると考えた。

2. 活動内容（詳細）

○平成26年（事業実施前年）

「やまとみどり」について、聞き取りによる県内生産者の栽培、加工状況調査を行った。その中で、本種の栽培面積は非常に少ないながらも「普通煎茶」だけではなく、「かぶせ茶」「紅茶」「食品添加用抹茶」などが作られていることや、生産者自身も主力品種にはなり得ないものの、特徴ある品種として栽培していることがわかった。但し、紅茶以外単独で販売されることはほとんど無いことも判明し、本種の活用を検討する契機となった。

○平成27～28年

- ・「産地ブランド発掘事業（平成27～28年）」を活用して、本種の再評価とその特徴である煎茶品質の良さや機能性成分を利用した商品開発に取り組んだ。
- ・生産者の製造する茶種（「普通煎茶」「かぶせ茶」「紅茶」「食品添加用抹茶とそれを利用した菓子類」）に応じた試作品の作製に取りかかるとともに、消費者、業者などから試作品の評価を得た。



奈良市内での消費者に対する試飲調査
(H28.9.4)



「やまとみどり」抹茶を使用した菓子類の
試作品

- ・これらの試作品をもとに、実需者（製茶小売店、製菓業者等）とのマッチング活動を行った。
- ・「やまとみどり」の初期生育が良くないことを解消するために、セル苗の導入を図った。

○平成28年

- ・セル苗は欠株もなく、初期生育に優れることがわかったが、高価である。そこで、セル苗の半額程度の費用で済む地床苗の増殖試験に取り組んだ。本県の生産者3人に各900本ずつ育苗してもらった結果、3節2葉で挿し木することにより良苗を得られることがわかった。
- ・やまとみどりの来歴、特性等を取りまとめ、平成28年12月4～5日にかけて行われた全国地紅茶サミットにて発表した。



全国地紅茶サミットでの「やまとみどり」に関する発表

3. 具体的な成果（詳細）

○かぶせ茶

平成28年産「やまとみどり」のかぶせ茶を、他産地の主要品種と比較試飲調査した結果、遜色のない品質評価と価格評価が得られた。

マッチング活動の結果平成29年一番茶について奈良県市況の2倍以上の価格で首都圏茶業者へ試験販売できた。

品種	香り	味	購入価格 (小売り100g)
おくみどり	6.4	7.1	¥1,207
やぶきた(静岡)	6.7	6.8	¥1,130
ゆたかみどり	5.7	7.1	¥1,065
やまとみどり	5.7	6.1	¥1,011
さえみどり	6.2	7.0	¥1,011
さえあかり	6.6	6.4	¥1,000
しゅんたろう	5.5	6.0	¥978
やぶきた(鹿児島)	6.3	6.7	¥967
やぶきた(埼玉)	6.0	6.4	¥957
あさのか	5.3	5.9	¥837
かなやみどり	5.1	5.2	¥837
あさつゆ	5.9	5.6	¥826
サンルージュ	4.1	4.2	¥798
全平均	5.8	6.2	¥972

n=23

首都圏の日本茶インストラクター・茶業者対象試飲調査結果 心向樹 川口氏提供 (H28.11)

○食品添加用抹茶

同じくマッチング活動の結果、平成29年度より県内の製菓業者など4業者が本種抹茶を用いた製品の販売を開始した。また、大手製菓業者の協力も得られることとなった。

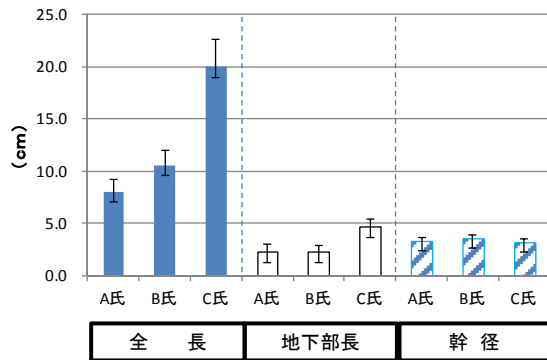
○紅茶

平成28年12月4～5日に開催された、全国地紅茶サミットにて本種の紅茶の試飲を行うとともに、本種の来歴、特性等について研究会で発表し、本種について県内外の茶業関係者、消費者に広く知らしめた。

○本種の普及について

活着、生育の良いセル苗だけでなく、低コストな地床苗での育苗も検討した結果、3節2葉で挿し木すれば良苗を得られることが確認できた。

また、植栽予定も含め平成28年度から今年度にかけての新規植栽は3戸、30aとなり、本種の植栽が数十年ぶりに行われることとなった。



地床苗の増殖試験結果について
(C氏の苗が良苗であった)



やまとみどり植え付け作業 (H29.3)

4. 農家等からの評価・コメント (奈良市月ヶ瀬I氏)

「やまとみどり」は現在主流となっている品種に比べれば非常に生育が遅いと思う。しかし、奈良県で本種を作ることの魅力は大きいと考えている。出荷時期が遅くてもこの茶独特の土俵で販売できるのではないかと考えている。

5. 普及指導員のコメント (北部農林振興事務所農林普及課農産物ブランド推進第二係 宮本大輔)

やまとみどりは非常に特徴のある品種でありながら、生産性が低く、極晩生であることに加え奈良県では従来直販の形態が少なかったために栽培面積を減らしてきた。現在は流通方法も様々であるために本種の活用も可能と考えられる。煎茶から抹茶、紅茶、ウーロン茶にまで取り組む生産者が出現したので、奈良県産茶のPRに一役買うのではないかと考える。

6. 現状・今後の展開等

「産地ブランド発掘事業」は平成28年度に終了したが、取組自体は生産者および実需者(製茶小売業者、製菓業者等)の協力により継続する。やまとみどり関連商品の販売額が累計で250万円程度を目標に取り組んでいければと考えている。